

---

# 遊戯王 アルカナソウル

キャベツ王子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 アルカナソウル

### 【Nコード】

N8006Y

### 【作者名】

キャベツ王子

### 【あらすじ】

普通のアカデミア受験生鳴上 総司。だがアカデミアの試験に行く途中で奇妙な夢を見てしまい…。アカデミアで新たな出会い、さまざまな出来事が彼を成長させていく、そんな物語。

## 試験というのは遅れると基本不利

「眠い…」

俺の名前は鳴上総司。デュエルアカデミアの受験生だ。デュエルアカデミアと言うのはプロデュエリストを養成する所だ。

で、今日はそのデュエルアカデミアの試験、電車に乗って試験場へと向かっている途中。

昨日遅くまでデッキ調性をしていたためか凄い眠い、このままオリンピックの日まで眠りたい、そんな気分だ。

「駅まで…あと…10分…寝るな俺…でも5分ぐらいなら…zzz」

俺の意識は暗闇へと落ちた。

- - - - -

「お待ちしておりました」

「…Why?」

目の前にはゴスロリ服をきた俺と同じぐらいの年頃の少女がいた。

問題は今いる場所だ。ゴスロリ服が似合わない和室…しかも戦国時代の武将が座っているような広い部屋だ。

もしかしてあれか？電車の中で寝ていた俺を誘拐したのか？それだと俺やばくないか？

…それはないか。

「ご心配召されずに。現実のあなたは眠っているだけ、ここは夢の世界だとお考えて下さい」

「・・・」

…頭が痛くなってきた。

「失礼。自己紹介が遅れました。私、<sup>わたくし</sup>キャサリンと申します。以後お見知りおきを。

「はあ…俺は鳴上総司です…」

キャサリンが丁寧に喋るので、つられて俺も丁寧になっちゃおう。

「突然お呼び立てして申し訳ありません。実はあなたに話しておかないといけない話がありますので」

「話って？」

「あなたにある力の素質があるのです。ですが、あくまで素質、その力に目覚めるかどうかはあなた次第。私はその力を持つ者を導くのが私の役目で御座います」

力…？素質…？まるで意味がわからんぞ！

「今は分からなくて結構。しかし、ここでは何でも調べる事が出来ますので、調べ物が出来ましたらこの鍵を使い、ここにいらっやって下さいませ。私が力になりましょう」

「それではごきげんよう」といいキヤサリンは指パッチンをする。すると俺の意識がうつすらと消えていく

- - - - -

「…ん」

目が冷めると電車の中、椅子に座っていた。

それにしても…なんだ今の夢…？ホント疲れてんかな…？ま、たちの悪い夢だと思って忘れるか…

…そう言えば今どこの…え…き

「…！？」

まずい…電車降りる駅通りこしているだと…！？

「やばいつて！」

不幸中の幸いか、電車は駅で止まっていた。降りて電車に乗れば間に合うか？

考える前に全速力で電車を降りていた。

- - - - -

「ぜえ…ぜえ…」

ぎりぎり…か？

「90番！鳴上総司！いないのか！？」

「はいはい！！います！今行きますから！ぜえぜえ…」

くそッ…今日は災難だな…そう言えば…必勝祈願で行った神社でおみくじ日居たら大凶だったけ？

「ダメだ！ダメだ！そんなん考えてたらホントに落ちるって！」

ダメだ…疲れて上手く頭が上手く回らない…。おかげで変な目で見られてるよ…

「おい、大丈夫か？」

「あ？」

凜とした声の主は赤い髪のポニーテールの女性だった。

「酷く疲れているようだが…」

「大丈夫、大丈夫！でも、心配してくれてありがとう。じゃ！急いでるから！」

俺は今日行われる実技試験の会場へと走った。

「待たせたねお姉ちゃん」

「別に待っていない。試験はどうだった？」

「…あんなのただのザコキャラよ。」

「そうか、じゃあそろそろ行こうか」

二人の姉妹は総司が走った逆の方へ歩き出した。

- - - - -

「遅いのーネ！」

「ぜえ…ぜえ…すみません！」

会場にいたのは黄色いおかつぱだった。

「ペナルティとしてデュエルアカデミア実技最高責任者である私が  
相手をするノーネ！」

「まじっすか…ぜえ…ぜえ…」

ダメだ…今日は本当にダメな日だ、人生で二、三番目に不幸な日だ…

「さっさと用意するノーネ！」

「ぜえ…ぜえ…こうなりややけだ！」

俺は素早くデュエルディスクを装着する。昨日徹夜してまで改良したデッキをデュエルディスクに入れる。

「デュエル!!」

総司LP4000

おかつぱLP4000

「先行は譲ってやるのーネ！」

「あざっす！俺のターン！」

手札は…上々、まだましな手札だ。

「【磨破羅魏】を召喚！このモンスターの効果は次の俺のドローフエイズにデッキトップを確認し、デッキの一番上か下におく事が出来る！」

【磨破羅魏】

ATK1200

「俺はこれでターンエンド。そして【磨破羅魏】はスピリットモンスター。自身の効果により手札に戻る。さあ、どこからでもどうぞ！」

「フィールドをがら空にするなんてなめてのです カ！？私のターン！フィールド魔法【歯車街】を発動を発動するノーネ！更にカ



ードを二枚伏せ、【大嵐】を発動するノーネ！」

二枚の伏せカードと歯車だらけの街が嵐によって破壊される。

凄く嫌な予感しかない…

「破壊された【歯車街】と伏せカード二枚の【黄金の邪神像】の効果を発動スルーの！まずは【歯車街】の効果により、デッキから【古代の機械巨竜】を特殊召喚するノーネ！次にセットされていた【黄金の邪神像】破壊された事で【邪神トークン】を特殊召喚するノーネ！」

【古代の機械巨竜】

ATK3000

【邪神トークン】×2

ATK1000

「まだまだですーノー！二体の【邪神トークン】を生贄に捧げ、来るノーネ！【古代の機械巨人】！」

【古代の機械巨人】

ATK3000

攻撃力3000のモンスターが二体…流石に実技の最高責任者って事はあるな…。この絶望的な状況から観客席からは「終わったな」と思っている人がある顔をしている人がほとんどだ。

「これで終わりノーネ！二体のモンスターでダイレクトアタックするノーネ！」

まずは【古代の機械巨人】が俺に殴りかかってきたが、その攻撃は鐘を持った悪魔のようなモンスターに防がれる。

「何なのーネ！？」

「相手からの直接攻撃を受けた事により、手札から【バトルフェーダー】の効果が発動！バトルフェイズを終了させ、このカードを特殊召喚！」

【バトルフェーダー】  
DEF0

「焦っちゃだめですよ先生」

「ぐぬぬ…、ターンエンドナノーネ！」

「俺のターン！【摩破羅魏】の効果により、デッキトップを確認する」

デッキトップのカードは【聖なるバリア・ミラーフォース】…。アンティーク・ギアシリーズにはほとんどの攻撃反応型のトラップには効かない…よって今の状況では無意味のカード…

「俺は確認したカードをデッキの一番下に置く。そしてドロー…！フツ…」

悪いなおかつば先生…俺の勝ちだ…！

「【バトルフェーダー】を生贄に捧げ、【砂塵の悪霊】を召喚！こ

いつは召喚成功時、フィールドに存在するこのカード以外の表側表示モンスターをすべて破壊する！サンド・ストーム！」

【砂塵の悪霊】が砂嵐を起こし、おかっぱ先生の二体の機械族モンスターは砂まみれになり、機能停止する。

「なななんですーと！？」

「手札のスピリットモンスター【伊弉波】を除外し、手札から【伊弉風】を特殊召喚！」

【砂塵の悪霊】

ATK 2200

【伊弉風】

ATK 2200

「バトル！【砂塵の悪霊】でダイレクトアタック！更に【伊弉風】もダイレクトアタック！ブレイブ・ザッパー！」

「ぺぺロンチいノおおー！」

おかっぱ

LP 4000 1800 0

「試験の結果は後日通達するノーネ……」

「はいですーの……じゃなくて、了解です！ありがとうございます！」

ふう…緊張したな…実技の最高責任者ッていうぐらいだから負けるかと思っただけ、なんとか勝てた。受験生だから手を抜いてくれたのか？

「よ！お疲れさん！」

「悠か、ありがとうさん」

有里 悠。俺の昔からよくつるんでる奴だ。どんな奴かって聞かれると、友達思いな奴だな。

「…？今日は愛華と一緒にじゃないのか？」

「用事があるから試験が終わってすぐ帰った。なんの用事かは聞いてないけどな」

愛華というのは悠と同じ孤児院で暮らしてる女の子だ。ついでに言うとう悠の恋人だ。「爆発しろ」

「なんか言ったか？」

「別に。誰も爆発しろとは言ってませんが」

「敬語になってんぞ！それに爆発しろってなんだ！？」

「そんなのはどうでもいいから腹減った。マック行くぞ」

「無視すんなあああ！」

マックへ向かう途中俺と同じ様に遅刻したのか走っている奴がいたけど、そいつの話はまた別のお話…。

## 試験というのは遅れると基本不利（後書き）

今回の最強カード

伊弉冉イザナギ / Izanagi 十

効果モンスター

星6 / 風属性 / 天使族 / 攻2200 / 守1000

このカードは手札のスピリットモンスター1体をゲームから除外し、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在するスピリットモンスターはエンドフェイズ時に手札に戻る効果を発動しなくてもよい。

総司「スピリットモンスター関連で優一特殊召喚が出来るモンスターだ。【雷帝神】が倒せない【サイバー・ドラゴン】を倒せるといふ中々使えるモンスターで、スピリットモンスターを維持出来る効果を持つ。ちなみに俺のフェイバリットカードだ」

## 主人公と注意

鳴神 総司

年齢：15歳

性別：男

身長：170cm

使用デッキ『スピリット』

見た目は：ペルソナ4の主人公だと思って下さい。

どこにでもいる一般のアカデミアの受験生…のはずだが試験会場へ向かう途中、謎の夢を見る事になる。その夢の内容を要約すると、総司には力の素質があるとかそんな感じ。とある友人にだけはDSになる。

両親は事故で無くしており、今は叔父の家で生活している。

注意をいくつか。

- 1、オリキャラ&amp;オリカ多数ですご注意下さい。
- 2、ある一人のTFキャラの設定をストーリーの展開上、大きく変更しております。
- 3、作者は文才ナッシングです。
- 4、不定期更新（出来れば更新する日を決めて行く予定）

以上の事が苦手な方は読む事をやめる事をお勧めしません。慣れて下さい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8006y/>

---

遊戯王 アルカナソウル

2011年11月23日20時50分発行